

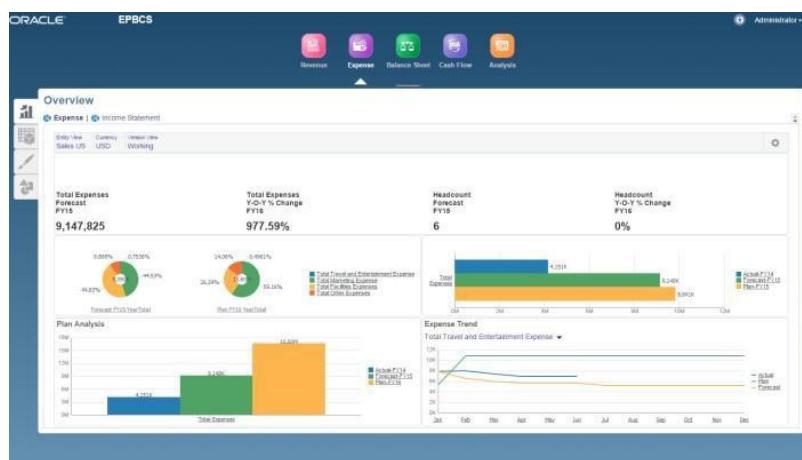
Oracle Cloud EPM におけるPlanning

一言でいえば、プランニングが簡単になりました。ビジネスの運営にもっと時間を費やし、プランニング・プロセスの維持管理にかかる時間を短縮しましょう。Planningは、Oracle Fusion Cloud EPMで使用可能な専用のビジネス・プロセスであり、企業の財務担当者だけでなく、企業全体の業務担当者（営業、マーケティング、人事、IT、事業部門など）にも最適な機能です。業務計画担当者に、柔軟

な予算・予測ツール、予算・予測・実績の比較分析ツール、予算・予測・実績のダッシュボードなど、豊富な機能を提供します。

思いのままにプランニングを

プランニング業務は、お客様の業務のやり方によって決まりますが、このソリューションを導入することで、お客様固有のニーズを満たすことができます。戦略、財務、人員、資本、プロジェクト・プランニングのフレームワークの統合や、すぐに使える拡張性の高い機能の活用、特定のユースケースに合わせたソリューションのカスタマイズ構築も実現できます。このソリューションは、1つで2つの側面の長所を兼ね備えています。まずプランニング・ツールには、シンプルさを追求するものと、柔軟性を追求するものの2つがあります。このソリューションでは、クラウドベースのプランニング・ソリューションの容易なアップグレード機能を維持しつつも、レジテラ・データを満たす柔軟性を



設定可能なダッシュボードにより、計画や予測をリアルタイムで簡単に視覚化（自動再補正）

主なメリット

- 独自のカスタム・プランニングや予測モデルを作成したり、プロセス、計算、ダッシュボード、レポートを含む専用のプランニング・モデルで、素早く運用を開始することができます。使いやすく、メンテナンスも容易。
- 業務と財務の両方のプランニング・プロセスに対応する拡張性を具備しています。
- 直感的なビジネス・ウィザードにより、ビジネスの変化に応じて計画プロセスを進化させることができます。
- 強力な分析、ダッシュボード、what-if、予測機能により、比類のないビジネス・インサイトが得られます。

クラウドにおけるインフラス

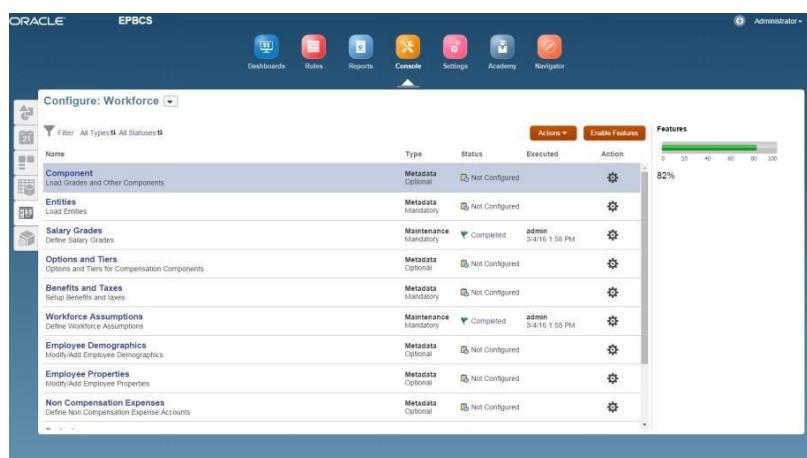
すぐに使える機能の価値

すぐに使えるプランニングのコンテンツは、アプリストアにあるような、サポートのされていないスター・テンプレートではありません。そうではなく、特定のニーズに合わせてカスタマイズでき、しかもオラクルの新しいリリースにアップグレード可能な革新的な新しいモジュールです。自社のプランニング・プロセスが特殊すぎるあまり、画一的なプランニング・コンテンツでは不十分だとお考えではありませんか。Planningは、ありかなしかを決めるものではありません。設定の「マッシュアップ（組み合わせ）」を活用することで、既にあるプロセスとオラクルの事前構築済みのプランニング・コンポーネントを組み合わせることができます。モデルやダッシュボード、レポート、KPI、プランニング・アクセラレータなど、事前構築済みのプランニング・コ

短期間での導入が可能

ベストプラクティスのプランニング・モジュールは最小限の工数で稼働できるように設計されており、ビジネス・プランニングのニーズが進化しても簡単に保守できる仕組みになっています。これは使いやすいウィザードによるものであり、製品知識を深く理解しなくとも、各手順のウィザードで業務上の質問に答えるだけで、技術知識がない人でも複雑なプランニング・プロセスを設計することができます。

設定可能なプランニングのフレームワークは、ターゲットとなるプランニング・プロセスの迅速な立ち上げと実行により、即効性の高い価値を提供します。その後、時間をかけてプランニング・プロセスを強化し、洗練させることができます。このように、実装に長く時間をかけるのではなく、迅速に成果を上げ上りアジャイルな方法でプランニング・プロセスを洗練させることができます。



また、直感的なビジネスウィザードにより、必要な機能のみを簡単に有効化し、計算やプロセスを迅速に設定することができます。

主な機能

- **Financials** – 損益計算書、貸借対照表、キャッシュフロー全体で包括的に統合された財務諸表のプランニング機能
- **Strategy** – 事前に組み込まれた高度なシナリオ・モデルリング機能、モンテカルロ・シミュレーション、債務と資本構成管理
- 機能を使った、長期予測モデルの迅速な作成

Workforce

- ブ・コードごとの報酬支出のための財務ワークフォース・プランニング

HCMとの統合

- Oracle HCM Cloudとの事前に組み込まれた統合、およびサードパーティのHCMソリューションとのシームレスなクラウド間統合により、従業員や戦略的優先施策との連携の実現

- **Projects** – プロジェクト主体の業界や部門（IT、マーケティング、研究開発など）向けのプロジェクト財務計画機能

Capital

- 新規および既存資産の影響に関する詳細なプランニングを行う資本資産プロセス

CXとの統合

- Oracle CX Cloudとの事前に組み込まれた統合、およびサードパーティのCXソリューションとのシームレスなクラウド間統合により、販売計画との連携の実現

強力なExcelアドインであるSmart Viewにより、アドホック分析やExcelベースのプランとの連携の実現

過去の実績データに基づいて予測を作成できる、統合

ORACLE

ベストプラクティスのモジュール

Oracle Cloud EPMのPlanningには、お客様のプランニングのニーズに対応した事前定義されたモジュールが含まれています。こうしたモジュールは、財務計画担当者と業務計画担当者の両方が使用できるものです。これらのモジュールをそのまま使用したり、設定されたプロセスと組み合わせて使用したりすることで、プランニン

- **Strategy** – 'Strategy' モジュールは、シナリオ・モデリングに特化したモジュールで、多数のビジネス・シナリオの財務および業務分析における豊富な機能を備えています。エンドユーザーは、前提条件やモデルのロジック、シナリオの組み合わせを、瞬時にかつ簡単に変更することができます。この機能は、コーポレート部門やグループのユーザーだけでなく、事業部門のユーザーも使用することができます。また経営企画など、会社の戦略方針に関わっているユーザーに対しては、試算表全体（損益計算書、貸借対照表、キャッシュフロー）、財務機能、M&Aといった、堅牢な財務ロジックも備えています。

Financials – 'Financials' モジュールは、損益計算書、貸借対照表、キャッシュフローにまたがる完全に統合された財務諸表計画ソリューションです。例えば損益計算書を変更すると、貸借対照表とキャッシュフローにその内容が自動的に反映されるように統合しています。重要なポイントとして、財務は4つのサブプロセス（収益、費用、貸借対照表、キャッシュフロー）で構成されていることであり、この機能を段階的に使えるよう

- していくことができます。これにより、費用プランニングのような単一のサブプロセス、またはモジュール内のサブプロセスの任意の組み合わせを使用することができます。

Workforce – 'Workforce' モジュールは、全社の人材に関するプランニングのニーズに対応します。ほとんどの企業において、従業員は損益計算書における最も大きな費用の1つです。さらに、人材活用は、企業の戦略的目標の達成における非常に大きなポイントです。したがって、プランニング・プロセスが重要となってくる

- のです。このモジュールは、財務と人事の両方のニーズに対応しています。従業員や職種コードごとの報酬支出に対応し、HCMシステムや戦略的な人材計画と統合することで、現在と今後の人材予算、スキル、人材の管理に向けた包括的なソリューションとして提供することもできます。

- **Projects** – 'Projects' モジュールは、さまざまな場面で活用できるプランニングのパターンです。プロジェクト主体の業界では、従業員や請負業者、資材、大規模プロジェクトに関連するコストなど、きめ細かな粒度でプロジェクトの財務計画プロセスを行うことで、成果を上げることができます。またProjectsモジュールは、ITやマーケティング、R&Dなど、プロジェクト主体の部門で、プロジェクト計画による効率的なアプローチを柔軟でカスタマイズ可能なソリューション

業務プロセスというのは、業種や企業規模、その業務の複雑さによって異なります。Oracle Fusion Cloud EPMは柔軟性と拡張性に優れたソリューションです。財務部門の枠を超えて、対象となるビジネス・ニーズに合わせてカスタマイズすることができます。このソリューションは、直感的なWebインターフェースと強力なExcelアドインのSmart Viewの両方を兼ね備えており、WebインターフェースとSmart Viewには、あらゆるビジネス・プランニン

サンドボックスと予測分析による堅牢なモデリング

今日の企業は、急速に変化するビジネス環境にさらされています。需要は不安定であり、コストは変動し、サプライヤーの状況は常に変化しています。競争に打ち勝つ上で重要な条件は、こうした変動性を理解し、想定が急速に変化した場合でも、それに沿って財務および業務の変化を迅速にモデル化することです。

Planningには高度なモデリングと予測分析機能があり、ユーザーは複数のwhat-ifバージョンを作成し、さまざまな仮定に基づいてデータを多面的に見ることができます。また、Planningにはローリング予測のウィザードがあります、これは、予測する時間の範囲が時間の経過とともに進む機能であり、これによって予測ベースの

高度なシナリオ・モデリングのフレームワークにより、エンドユーザーは、事前に組み込まれたシナリオ・ブレンディングの機能を使用して、急速に変化するビジネス・ダイナミクスに対応した長期予測モデルおよび臨機応変な短期的な予測モデルを迅速に作成することができます（モンテカルロ・シミュレーション、債務と資本構成管理など）。

エンタープライズのプランニング・プロセスとの連携

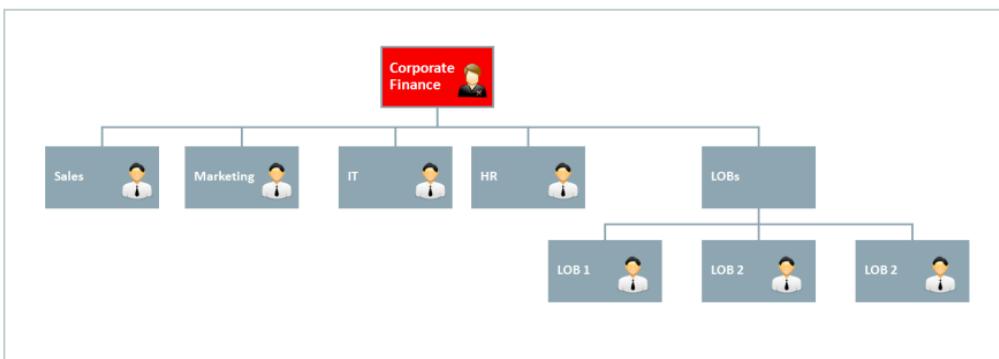
プランニングは、コーポレート・ファイナンスに限定されるべきものではありません。エンタープライズ・プランニングで最も成功している組織では、業務計画担当者とコーポレート・ファイナンスの内容を、双方の利害関係者に相乗効果をもたらす形で結びつけています。

Planningでは、独自の‘federated’アーキテクチャによって、こうした連携を実現しています。

- **業務上の独立性** – 業務計画担当者が成功するためには、プランニング・プロセスにおけるオーナーシップが必要です。まず、業務レベルの詳細さ（例えば、通常、財務が必要としない詳細さ）で計画を立てる必要があります。これは、プランニングの次元を変えたり、データの粒度を細かくしたり、予測の間隔を変えたりすることかもしれません。私たちのフェデレーテッド・アーキテクチャは、詳細なプランニングに対応した、卓越したスケーラビリティを備えています。またシステムとして、業務計画に必要な大量のデータを簡単に処理できるインメモリ計算や、疎データを扱う独自の方法を備えています。さらに、業務計画担当者には、コーポレート・ファイナンス領域のシステム管理者に過度に依存せずとも、プランニング・システムを自分のものとして管理できる機能が必要です。そこで、構成ウィザードの価値が発揮されます。これにより、運営業務計画担当者はシステムのメンテナンスと管理のオーナーシップを持つことができます。

プラン間の相乗効果 – 可能な限り、プランニングは相乗効果と整合性を生み出す形で結びついている必要があります。例えば、さまざまな業務に関する計画（営業やマーケティング、サプライチェーン、人事、ITなど）は、強力な統制とガバナンスを確保した形でコーポレート・ファイナンスと連携させる必要があります。このクラウド・ソリューションであるため、より現実的に企業全体でプランニング業務を拡張させることができます。

Oracle Cloud EPMのPlanningのフェデレーテッド・アーキテクチャでは、バラバラに作られた計画が多数存在するのではなく、計画全般にわたる整合性と相乗効果を担保することができます。これにより、企業全体にプランニン



Planningを利用することで、独立性を確保しつつも、関連するプラン間のシナジーを実現する、つながりのあるプランニング・プロセスを作成することができます

統合とハイブリッド・クラウドの導入

適切に設計されたプランニング・プロセスは、孤立した「データの島」ではありません。企業内の業務システムや財務システムと深く結びつくものです。これらのシステムの中には、オンプレミスに存在するものもあれば、クラウドに存在するものもあります。Planningは、ハイブリッドな導入においても成功するように設計されています。たとえば、このソリューションにさまざまなデータ管理オプションが含まれており、企業は適切なものを柔軟に選択することができます。場合によっては、基本的なフラット・ファイルのインポートが最適なツールになるかもしれません。こうしたツールは迅速かつ簡単であり、誰でも対応することができます。一方、ソースシステム（オンプレミスまたはクラウド）からの高度に自動化されたデータ変換やロードプロセスを選択することもできます。また、動作保証済みのアダプタと、セキュアなRESTful APIを使用して、統合をより高度に構成する機能もあります。

す。いずれの場合においても、Planningは、業務に適したツールを兼ね備えています。

このソリューションは、Oracle Hyperion Planning、Hyperion Financial Managementといった、他のオンプレミス型エンタープライズ・パフォーマンス・プランニング・システム間とのシングルサインオン(SSO)とレポーティング機能にも対応しています。これにより、既存の財務システムでの投資

を減らすことで、より効率的な業務プロセスを実現できます。

最後に

企業のエンタープライズ・パフォーマンス・マネジメントの管理において、より効果的なプランニング・ソリューションの導入は不可欠です。Oracle Cloud EPMのPlanningは、財務計画担当者と業務計画担当者の双方にとって、非常に魅力的な価値を提案します。前述の内容は、ソリューションの価値の

範囲を概要するものであり、より詳細な情報については、オラクルのアカウント

Oracle Fusion Cloud EPM

Oracle Fusion Cloud EPMは、絶えず進化し続ける今日のビジネス環境において、卓越したパフォーマンスを発揮する上で必要な俊敏性を提供する、

高度な機能性の高いツールです。

関連するEPMのビジネス・プロセス

Oracle Fusion Cloud EPMには、次の機能があります

- Narrative Reporting
- Financial Consolidation and Close
- Account Reconciliation
- Planning
- Profitability and Cost Management
- Tax Reporting
- Enterprise Data Management

その他の関連ソリューション

- Oracle Fusion Cloud ERP
- Oracle Fusion Cloud SCM
- Oracle Fusion Cloud HCM
- Oracle Fusion Cloud CX

オラクルへのお問い合わせ

0120-155-006 | お電話: 0120-155-006 | <http://oracle.com/jp/contact/> | アクセス: 0120-155-006

 blogs.oracle.com

 facebook.com/oraclecloudclub

 twitter.com/oracletechnetjp

Copyright © 2021, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved. この文書は情報提供の目的として提供されており、ここに記載されている内容は予告なく変更される場合があります。この文書は、誤りのないことを保証するものではなく、口頭や法の指示によるいずれの場合も、販売可能性や特定用途への適合性について暗黙の保証や条件を含め、その他の保証や条件の対象となるものではありません。当社はこの文書に関する一切の責任を放棄し、この文書による直接的または間接的な契約上の義務は生じないものとします。この文書は、当社の事前の書面による承諾を得ることなく、目的の如何を問わず、電子的手段または印刷によるものも含めていかなる形式や手段によっても複製または送信することは禁じられています。

このデバイスは、連邦通信委員会の規則で規定されているとおりに認可されています。このデバイスは、認可を取得するまで、販売またはリース用に提供された

OracleおよびJavaはOracleおよびその子会社、関連会社の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

IntelおよびIntel XeonはIntel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARC商標はライセンスに基づいて使用されるSPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD、Opteron、AMDロゴおよびAMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devicesの商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。0120

免責事項: データ・シートに免責条項が必要かどうかわからない場合は、収益認識ポリシーをお読みください。コンテンツおよび免責条項の要件についてさらに質問がある場合は、REVREC_US@oracle.comに電子メールを送信してください。